

6. 災害シナリオの作成

災害シナリオは、地域別シナリオと項目別シナリオに分けて作成した。シナリオは、想定される事象と共に災害時に行う行動を記載することにより、災害時の対応（施策）活動となるように作成した。

表 6.1 作成したシナリオの区分

区分	シナリオ作成の考え方
地域別シナリオ	県全体の災害様相（地域別の被害）を把握することを目的として、災害様相と共に県内の地域別における時系列行動シナリオの作成を行った。 地域別とは、津軽地方を東青地域、中南地域、西北地域の3地域に、南部地方を下北地域、上北地域、三八地域の3地域に区分して作成を行った。
項目別シナリオ	災害時に発生する事象、行動を概観できるように、被害想定を行った項目別に、発生する事象を時系列に記載した行動シナリオの作成を行った。

6.1 被害シナリオ

6.1.1 地域別シナリオ

項目	被害想定	地震発生	半日	1日	3日	7日	14日	1ヶ月	3ヶ月	半年	1年	備考	
東青地域	【震度】 震度5弱～震度6強 【状況】 0～25cm以上の地盤沈下 【建物被害】 全壊:28,000棟・半壊:29,000棟	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○沿岸の埋立地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 60～190分程度 【最高水位】 5.6m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:22,000人・負傷者:4,300人	○津波到達時間(約60～190分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容 ○遺体安置所、ドライアイスの不足 ○長期浸水による避難者の増大										
	【避難者】 12.3万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:15.9万人 下水機能支障人口:22.2万人 停電影響人口:21.1万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約40人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約28,000人)	○上水道の復旧活動(断水人口:15.9万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:22.2万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:21.1万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設
中津地方	【震度】 震度4～震度6弱 【状況】 0～25cm以上の地盤沈下 【建物被害】 全壊:4,000棟・半壊:18,000棟 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:30人・負傷者:80人	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○河川沿いの沖積地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 7～145分程度 【最高水位】 3.9m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:140人・負傷者:120人	○津波到達時間(約7～145分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容										
	【避難者】 0.8万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:7.2万人 下水機能支障人口:16.3万人 停電影響人口:18.0万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約70人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約230人)	○上水道の復旧活動(断水人口:7.2万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:16.3万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:18.0万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設
西北地域	【震度】 震度5弱～震度6弱 【状況】 0～20cmの地盤沈下 【建物被害】 全壊:930棟・半壊:4,700棟	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○沿岸の埋立地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 7～145分程度 【最高水位】 3.9m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:140人・負傷者:120人	○津波到達時間(約7～145分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容										
	【避難者】 0.2万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:4.2万人 下水機能支障人口:8.7万人 停電影響人口:8.7万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約30人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約230人)	○上水道の復旧活動(断水人口:4.2万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:8.7万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:8.7万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設
下北地域	【震度】 震度5弱～震度6強 【状況】 0～25cm以上の地盤沈下 【建物被害】 全壊:13,000棟・半壊:11,000棟	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○沿岸の埋立地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 15～200分程度 【最高水位】 10.8m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:6,500人・負傷者:2,000人	○津波到達時間(約15～200分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容 ○遺体安置所、ドライアイスの不足 ○長期浸水による避難者の増大										
	【避難者】 3.5万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:4.4万人 下水機能支障人口:1.6万人 停電影響人口:5.2万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約20人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約8,400人)	○上水道の復旧活動(断水人口:4.4万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:1.6万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:5.2万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設
南部地方	【震度】 震度5弱～震度7 【状況】 0～25cmの地盤沈下 【建物被害】 全壊:13,000棟・半壊:9,600棟	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○沿岸の埋立地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 20～180分程度 【最高水位】 21.1m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:4,500人・負傷者:1,500人	○津波到達時間(約20～180分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容 ○遺体安置所、ドライアイスの不足 ○長期浸水による避難者の増大										
	【避難者】 2.5万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:13.8万人 下水機能支障人口:9.3万人 停電影響人口:17.4万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約140人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約5,000人)	○上水道の復旧活動(断水人口:13.8万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:9.3万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:17.4万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設
三八地域	【震度】 震度5弱～震度6強 【状況】 0～25cmの地盤沈下 【建物被害】 全壊:53,000棟・半壊:14,000棟	○地震発生:太平洋側海溝型地震 ○沿岸の埋立地を中心に液状化発生 ○斜面崩壊、雪崩の発生 ○地震発生による地盤沈下 ○地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害 ○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ○火災の発生 ○副産物等による死者、負傷者の発生 ○副産物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○停電、ガス供給停止、水道断水(ライフライン被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ○事業所で待機 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も、食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動	(時間差をもって地震が発生した場合は被害拡大)	(降雨発生の場合は地盤の緩み等から斜面崩壊拡大)	○救助部隊の不足による要救助者の人的被害 ○家が無事な住民はライフラインの復旧により通常生活 ○住宅を失った住民は、避難所で生活						○通常の通勤・通学 ○被災者の生活再建支援 ○ガレキ等の災害廃棄物処理 ○ガレキ処理施設等の不足	
	【津波第一波の到達時間】 30～50分程度 【最高水位】 21.0m程度(最大) 【人的被害】(建物倒壊等含) 死者:20,000人・負傷者:7,300人	○津波到達時間(約30～50分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ○浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○長期浸水の発生 ○津波による被害者発生(家庭倒壊、避難時等の人的被害) ○地盤沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○危険物施設等のタンク等からの石油流出	○救助部隊の不足、道路閉塞等による要救助者の捜索が遅延 ○津波被害者の収容 ○遺体安置所、ドライアイスの不足 ○長期浸水による避難者の増大										
	【避難者】 11.7万人(地震発生当日) 【ライフライン被害】 断水人口:24.4万人 下水機能支障人口:16.1万人 停電影響人口:27.2万人	○消防署・消防団の消火活動等	○消防署等の救助活動(自力脱出困難者:約200人)	○津波被害者の捜索(要救助者:約22,000人)	○上水道の復旧活動(断水人口:24.4万人)	○下水道の復旧活動(機能支障人口:16.1万人)	○電力の復旧活動(停電影響人口:27.2万人)	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○避難者の運営	○仮設住宅の建設

※数値は冬18時のケース

6.1.2 項目別シナリオ

項目	被害想定	地震発生	半日	1日	3日	7日	14日	1ヶ月	3ヶ月	半年	1年	備考	
災害	【震度】 震度4～震度7 【状況】 0～20cm程度の地震沈下 (河川・沿岸部埋立地、沖積地)	○地震発生：太平洋側海溝型地震 (地震動) ・震域で震度4～7の強い揺れ ・数分程度強い揺れが継続(地震の緩い箇所ではそれ以上継続する場合もある) (状況) ・沿岸の埋立地、沖積地等の比較的地震の弱い地域を中心に液状化発生 (その他) ・斜面崩壊の発生 ・雪崩の発生(冬季) ・地震発生による地震沈下 ・地震による堤防等の構造物破壊による浸水被害	(継続的な余震発生)	(時間差をもち地震が発生した場合被害拡大)		(降雨発生の場合は地震の緩み等から斜面崩壊拡大)					○(余震の沈静化)		
	【到達時間】 5～200分程度 【最高水位】 ・東青 5.6m程度 ・西北 3.9m程度 ・下北 10.8m程度 ・上北 21.1m程度 ・三八 21.0m程度	○津波到達時間(5～200分程度) ○津波襲来、防波堤を越流 ・河川上による津波被害 ・浮遊物等による被害、津波火災の発生 ○地震沈下、堤防破壊等による長期浸水の発生 ○長期浸水の発生 ○津波漂流物による被害・津波火災の発生	(継続的な津波の到来)						○長期浸水の解消				
建物被害	【建物被害】 (全壊) ・揺れ:4,000棟 ・液状化:6,800棟 ・津波:86,000棟 ・急傾斜地:660棟 ・火災:13,000棟(合計 111,000棟) (半壊) ・揺れ:11,000棟 ・液状化:41,000棟 ・津波:33,000棟 ・急傾斜地:1,400棟(合計 86,000棟)	○建築物倒壊及び構造物の損傷 ○地震による堤防、排水機場等の治水施設の損傷 ・堤防破壊等による河川沿いの低平地の家屋浸水 ○屋内収容物の落下、転倒、室内の散乱 ○一般住宅から火災が発生 ・初期消火不十分(高齢者家庭等) ○建物からの看板、ガラス等の落下物による被害 ○木造家屋の倒壊、火災発生 ○消防署、消防団による消火開始 ・消防団の参加、動員数の不足で活動能力低下 ○消防関係施設及び設備の被害 ○津波による建物倒壊、火災発生 ・浮遊物による建物倒壊、火災発生 ○津波による建物の倒壊	○危険物施設等のタンク等からの石油流出 ・石油流出による火災発生 ○地震による建物倒壊多数 ・建物倒壊による人的被害の拡大 ・新規に火災が発生 ・消防活動中の車両等が建物倒壊に巻き込まれ能力低下 ○火災現場近くの防火水槽の水がなくなり消火が困難				○電力の復旧に伴う倒壊家屋での通電火災発生 ○被災建物の応急危険度判定を開始 ○余震で建物が倒壊						
	【人的被害】 ・死者:53,000人 ・負傷者:15,000人	○高齢者等の逃げ遅れ、倒壊建物に取り残される ○倒壊建物等による死亡者、負傷者の発生 ○倒壊建物への閉じ込めによる要救助者の発生 ○負傷者の応急手当 ○重傷者の救出要請 ○負傷者等の避難所、医療施設への搬送 ○避難所への自主避難及び誘導 ○生き埋め者の救出 ○災害時要援護者の見守り ○津波による被害者発生(家屋倒壊、避難時等の人的被害)	○道路渋滞や交通機関途絶により帰宅困難発生 ・事業所で待機、駅前等に移動 ○家族の安否確認が困難(施設被害、輻輳で不通) ○住宅を失った住民、ライフライン被害を受けた住民が避難所に集中 ○住宅が無事な住民も食料、飲料水の確保等で避難所に集中 ○移動が困難な人が(観光客の帰宅困難者等)が避難所に移動				○帰宅困難者の帰宅 ・自宅、避難所への移動 ○救助部隊の不足による要救助者の人的被害						
ライフライン被害	【ライフライン被害】 ・断水人口:693,000人(56%) ・下水機能支障人口:696,000人(56%) ・停電人口:976,000人(79%) ・通信不通回線数:309,000回線(78%) ・都市ガス供給停止戸数:39,000戸(61%)	○停電、ガス供給停止、水道断水 ○一般電話、携帯電話は通話の通信途絶・輻輳・規制 ○倒壊建物の影響で断線、電柱の破損発生 ○中継局ダウンにより携帯電話の通話不能 ○被害状況や家族の安否情報を求め通信の輻輳発生		○(ライフライン)の供給停止、通話の規制継続 ○ライフライン被害の拡大									
	【交通施設被害】 ・緊急輸送道路:320箇所 ・鉄道:920箇所 ・港湾:120箇所	○橋梁落下、道路破損による通行不能 ○鉄道軌道の変形、地震による点検などにより鉄道全線不通 ○施設等のダメージによる公共交通機関の機能停止 ○地震による電車の転覆による被災者発生 ○建物倒壊などによる道路閉塞発生 ○避難による国道等の幹線道路の渋滞 ○津波による避難車両、公共交通車両の被災 ○津波により港湾施設が破損し海上交通不通 ○津波による船舶、港湾施設等の陸上施設の破壊	○公共交通機関(鉄道、バス)停止による帰宅困難者発生 ・駅前、バス停等に帰宅困難者集結 ○道路閉塞等に緊急車両の通行が困難				○(渋滞)継続 ○緊急輸送道路確保のため幹線道路等の交通規制 ○道路被災箇所への応急復旧を開始 ○物資輸送道路の運用						
災害応急体制	【救助者他】 ・自力脱出困難者(揺れ):520人 ・津波要救助者:21,000人 ・津波要援護者:62,000人	○近隣の住民等による救助活動 ・電話不通のため救出要請不能 ・要請集中で救出対応困難 ○消防・救急隊が渋滞により遅延 ○消防、救急隊が津波により被災 ○重傷者の搬送困難 ○夜間の場合は救助作業が継続	○浸水区域の津波避難ビル等からの救出(ヘリ等) ○近隣の消防隊、自衛隊到着 ・津波等により自主防災組織、消防隊、自衛隊の作業困難 ○行方不明者の捜索、収容 ○遺体安置所の開設 ○遺体の火葬、火葬場・葬祭用品の不足 ・不足した場合は近隣自治体に移送、協力要請			○応援の消防隊(県内他地域、全国)が到着 ○燃料不足による救助活動の支障 ○余震等で一時的に救出活動が中断 ○救出件数、救出者の生存率低下(72hr) ○遺体安置場所、ドライアイス等の不足 ○火葬場等の不足						○救助活動終了(遺体の捜索は引き続き継続)	
	【医療対応力不足】 不足量:8,800床	○医療機関への救護所の設置要請 ○救護所(避難所)への医師の派遣要請 ○救護所、医師会等との連絡不能 ○市内の病院に軽傷～重傷者の搬入 ○病院の倒壊・浸水 ○応急救助機関、自治体の施設倒壊・浸水 ○病院でのリハビリ医療 ○へリによる重傷者搬送(他県等の遠隔地への搬送を検討) ○医療資機材の破損 ・重傷者の移送必要 ・診療への支障	○医療機関の医療機能が低下、診療困難の医療機関発生 ○軽傷～重傷者が病院に集中 ○重傷者の後方医療機関へ転送必要	○医師・検死医の不足 ○医療機器、医薬品の不足			○救護所の設置 ○重傷者はヘリコプターで被災地外の病院へ搬送 ・緊急対応が必要な患者はヘリコプターで搬送 ○孤立集落の重傷者等の搬送(ヘリ等) ○救護所の体制確立 ○応援の医師、看護師等が到着し医療活動開始 ○ヘリポートの開設 ・消防隊へ、自衛隊のヘリで重傷者を搬送 ○人工透析患者等の日常受療困難者への対応(医療機関の確保、転送等)						
避難所	【避難者】 ・当日、1日後:311,000人 ・1週間後:288,000人 ・1ヶ月後:335,000人	○避難者が避難所に到着 ○避難所管理者の対応(施設の確認等) ○避難所運営委員の被災 ○避難所の津波浸水発生	○帰宅困難者が避難所に集中 ○指定避難所以外への避難による混乱 ○避難所管理者による避難者の把握等の開始 ○屋外避難(グラウンド、自動車) ○下水施設の機能支障による衛生状況の悪化			○避難所は、食料、水の供給を受ける人が集中 ○備蓄の仮設トイレを設置 ・レンタル業者等に確保要請、衛生業者へのくみ取り要請 ○ベットの問題化 ○避難所の不足等による自家用車等の生活者問題 ○仮設トイレの設置 ○自主防災組織等による避難所自主運営開始 ○小規模避難施設の把握、物資配達の実施 ○ボランティアの支援が活発化 ○ボランティア対応問題の顕在化 ○避難所内のトラブル発生 ○避難所のストレス、避難生活による血栓症等の傷病者が発生 ○応急仮設住宅等の開設開始 ○避難所の長期化(解消困難) ○学校(避難所)の授業再開困難						○仮設住宅の長期化	
	【物資不足量】(当日) ・食料:637,000食 ・飲料水:1,882,000リットル ・毛布:341,000枚	○サービスステーション(SS)、タンクローリーの被害	○避難者への緊急的な物資配給(炊き出し等) ○食料、飲料水の供給	○緊急給水施設、給水車による給水活動 ○スーパー、コンビニでの物資不足(販売停止)			○全国からの救援物資到着 ・燃料不足などによる物資の運送困難 ○物資の確保、避難者に配布 ○ボランティア団体等による物資配布 ○物資の受入整理の拠点施設を開設 ○全国からの救援物資到着						

※数値は冬18時のケース